

第1回 リスナー参加型 天下一学問会

高校レベル

解答解説

日本史

作問者：四宮式

問題数：大問2問

記述式

解答時間：60分

高校日本史・解答解説

出題背景

縄文時代から近代まで総合的な知識を求める問題文を作成するのに非常に苦労した。少し文学作品よりの問題が多いのは、これを機に実際に作品を読んで欲しいという意味合いが含まれている。

解説

問 1(5 点)

解答:720 年

解説:『古事記』と並んで日本の最も古い神話であり歴史書として扱われる。大體は今に保存されているが、30 巻のうち 1 巻がどこかに行ってしまった。

問 2(5 点)

解答:世阿弥

解説:世阿弥は足利義満の庇護下で能を発展させたことで知られる。ただ、能が後世に受け継がれていった一方、世阿弥自身は足利義満亡き後は次第に幕府内で肩身が狭くなっていき、最終的には佐渡島に流刑となってしまった。諸行無常。

問 3(5 点)

解答:三方ヶ原の戦い

解説:『どうする家康』にも登場する、徳川家康が背負った大ピンチの一つ。家康は家臣から兵力差から籠城を進言されるが、「城に籠っているのは領民に情けないと思われる」という理由で打って出た。

問 4(それぞれ 3 点、4 点、3 点)

解答:六代将軍徳川家宣、七代将軍徳川家継、八代将軍徳川吉宗

解説:家宣は綱吉の生類憐みの令を順次廃止する、学者の新井白石を重用するなどの功績があるが、なぜかあまり知られていない。家継は家宣の死後若干 5 歳で征夷大將軍となったが、8 歳の頃に風邪をこじらせて死んでしまった。家継の死により家継の血が途絶えてしまい、跡継ぎとして紀伊徳川家の吉宗が八代将軍となる。吉宗は享保の改革や目安箱をはじめとした数多くの政策や、松平健と同一視されることで知られている。

問 5(5 点)

解答:『東海道中膝栗毛』『奥の細道』『曾根崎心中』『南総里見八犬伝』など

解説:江戸時代の日本は全世界で見てもトップレベルの識字率があり、これらの娯楽作品が発展する一因となった。下手に格調高くないため、現代日本の庶民も気軽に楽しむことができる。恋愛、冒険、旅行、ファンタジーとその多種多様さは令和のライトノベルにも引けを取らない。気になるものを読んでみよう。

第 2 問

問 1(5 点)

解答:二葉亭四迷

解説:本名は長谷川辰之助。奇妙奇天烈なペンネームは、異説もあるが「くたばってしまえ」に由来するらしい。『浮雲』は恋愛ものとしてプロットは非常に優秀だが、落語を参考にしたせいで現代人の感覚ではミスマッチに思えてしまう。ところが言文一致を進めるにあたりこの小説は、あまりにも革新的だった。

問 2(5 点)

解答:『高野聖』

短編なのでスラッと読めるため、進めやすい近代文学の一作。なお、泉はペンネームのかわいらしさから女性だと思われがちだが、実際はむさくるしいオッサンである。本名を泉鏡太郎。バ美肉と同じだな！

問 3(5 点)

解答:ドイツ/プロイセン

解説:いずれの回答も正解とする。森鷗外はベルリンに留学している。留学中に鷗外はドイツの美人と関係を持ち、結婚すると言ったのに捨てて帰国。金持ちの家の娘と結婚した。やはり小説家にロクな奴はいない。なお、この時の実体験がもとになり『舞姫』が書かれている。

問 4(各 5 点)

解答:破戒→島崎藤村、蒲団→田山花袋

解説:被差別部落を題材にした『破戒』は社会的な一面もあり良作。『蒲団』はそんな『破戒』に影響された田山花袋によって執筆された。こっちは主人公が女学生のバジャマの匂いを嗅ぐなど、これでもかというほど人間の性を描いた。

問 5(5 点)

解答:1923 年

解説:木造家屋が多かった東京は震災直後に大火災が発生して多くの犠牲者を出した。今年で関東大震災から 100 年が経ち、東日本大震災からも 10 年以上が経過している。みんな災害対策はちゃんとしとこうな。

問 6(5 点)

解答:平塚らいてう、市川房枝 等

解説:当時、女性は参政権すら与えられなかった。平塚らいてうはそんな中女性の地位向上のために雑誌を作って女性のために尽力した。「元始女性は太陽であった」というフレーズはとても有名。

第三問

問 1(5 点)

解答例:これまでの旧石器時代とは異なり、植物を煮炊きするための土器が出現した。土器の形や紋様は独特な芸術性を持ち、今日でも評価されている。また旧石器時代の打製石器より優れた磨製石器が登場した。

解説:最近の研究で、思われていた以上にこの時代の人間は豊かでダイナミックな生活をしていたことが分かりつつある。例えば青森県の三内丸山遺跡では幅 30m 以上ある住居跡、高さ 10m と想定される建物跡が発掘され、従来の質素な縄文文化のイメージが覆った。

問 2(各 3)

解答例:租→税金としてお米を決められた量収めること。庸→都で労働をするか、代わりに品物を納めること。調→各地の特産品や布を決められた量納めること。

解説:それぞれの税金は当時の民衆にとって非常に重いものだった。各地である程度まとめられた米や布は、指名された農民が代表して都まで届けなければならなかった。都までの食料は自腹である。

問 3(5 点×2)

解答例:①中国で天台宗を学び、日本へ持ち込んだ。②比叡山に延暦寺を開山し、のちの日本での仏教の発展に大きく貢献した。

解説:最澄は空海と並んで平安時代の仏教を語る上で欠かすことのできない存在である。留学から帰国したのちに比叡山で教えを広めようとしたが、当時は政治的な力を保有していた南都六宗の反対と向き合わなければならない等苦勞が絶えなかった。

問 4(10 点)

解答例:平安時代に藤原氏が用いた政治体制。自分の娘を天皇と結婚させることによって、生まれた跡継ぎの外戚となって影響力を持ったうえで摂政や関白といった重職に就いて実権を握る。平安時代中期の藤原道長、藤原頼通の代に最盛期を迎えた。

解答:藤原氏は平安時代を最後に日本史の主人公からは遠ざかったが、その後も京の都の中で公家として多数の分家を輩出している。藤原氏から分れたとする家は現代でも非常に多い。